

# 2019年度 事業計画書

---

女性の自立と自活



学校法人 共立女子学園

## [目 次]

1. 2019年度事業計画について	1
I. 共立女子大学・短期大学	1
I-1. 学生確保	1
I-2. 教育の質	3
I-3. 学生生活	6
I-4. 学修支援・授業支援	8
I-5. 就業力	9
I-6. 地域連携	11
I-7. 教学マネジメント	12
II. 共立女子中学高等学校	14
II-1. 生徒確保	14
II-2. 教育の質	15
II-3. 教育力	17
II-4. 進路	19
II-5. 管理運営	21
III. 共立女子第二中学校高等学校	22
III-1. 生徒確保	22
III-2. 教育の質	24
III-3. 教育力	25
III-4. 進路	26
III-5. 管理運営	28
IV. 共立大日坂幼稚園	29
IV-1. 園児確保	29
IV-2. 教育の質	30
IV-3. 教育力	31
IV-4. 保護者との連携・協力	32
IV-5. 管理運営	33
V. 共立女子学園	34
V-1. 財政	34
V-2. 人事	35
V-3. 施設設備	37
V-4. 桜友会・後援会・地域等との連携	38
2. 2019年度予算の概要	39
(1) 2019年度予算編成方針	39
(2) 資金収支予算(表1)	39
(3) 事業活動収支予算(表2)	39
(4) 中期計画予算(表3)	39

# 1. 2019 年度 事業計画について

## I. 共立女子大学・短期大学

### I-1. 学生確保

#### 目標

アドミッション・ポリシーに則して、戦略的な広報や入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

<b>主となる委員会・会議</b> 全学アドミッション委員会 全学広報委員会	<b>主となる事務局</b> 入試事務室、総合企画室
--	-------------------------------

## 2019 年度 事業計画

### 【評価指標①】 共立女子大学・短期大学について、入学定員を確保する。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2020 年度入試は、ビジネス学部（仮称）も含め、入学定員管理をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試制度ごとの入学定員数管理を厳守する。</li> <li>偏差値を上げるため、志願者数・受験者数を増やし、可否のボーダーラインを上げる。</li> <li>ビジネス学部（仮称）新設広報を契機に、本学の認知度を上げ、早期から本学への志願度を醸成する。</li> <li>競合校と比較した本学の優位性（立地の良さ）をアピールする広報を展開する。</li> <li>ビジネス学部（仮称）広報においては、首都圏を中心に学部概要を案内するダイレクトメールを届けるとともに、女子大志向者だけでなく共学志向の受験生もターゲットとして、「学び」と「進路支援」と「立地」を包括的に訴求するための具体的な広報を展開する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は 7,000 人以上、共立女子短期大学は 600 人以上を目標にする。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は 7,000 人以上、共立女子短期大学は 600 人以上を目標にする。</li> <li>ビジネス学部（仮称）の一般入試の志願者数は、倍率 8 倍以上【志願者数/募集人員】を目標にする。</li> <li>偏差値（一般入試 2 月日程）を各学部・学科は 2.5、短期大学は 1 上げることを目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果の高い広報媒体に集中し、接触者数 41,500 人（9 月末日時点）を目指す。</li> <li>接触者に来校促進をし、本学の学生スタッフ・教職員とダイレクト接触をすることで、受験意欲の醸成をする。</li> <li>オープンキャンパスの高校生来校者延べ人数を 6,700 人（9 月末日時点）とする。</li> <li>オープンキャンパス来校者の出願率を 54.0%とする。</li> <li>入試制度を見直し、受験生が受験しやすいものにする。</li> <li>ビジネス学部（仮称）と既存の学部・科の広報を連動させることで、広報の相乗効果を生み出す。</li> <li>ビジネス学部（仮称）の広報を、高校 3 年生を中心に高校教員や保護者へ実施する。</li> <li>2019 年 10 月に予定している学園全体のホームページリニューアルにあわせ、受験生向けサイトもより訴求力の高い内容へ更新する。</li> </ul>

**【評価指標③】 2021 年度入試からの新基準に沿った新入試制度を実施する。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A0 入試や推薦入試において、思考力・判断力・表現力を評価する方法を導入する。</li> <li>・ ビジネス学部(仮称)の一般入試において、主体性を評価する方法を導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験生、保護者、高校教員が理解しやすいように、「A0 入試」「推薦入試」「一般入試」の3つの入試区分を、全学同時期に実施するように調整する。</li> <li>・ 2021 年度の新入試が滞りなく実施できるように準備をする。</li> </ul>

**【評価指標④】 アドミッション・オフィサー（専任職員）が、入試・学生募集に参画する。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021 年度の新入試に向けて、アドミッション・オフィサーが機能できる体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他大学の良い事例を参考にアドミッション・オフィサーの業務について検討する。</li> <li>・ アドミッション・ポリシーに則った学生が入学しているかどうかを検証する。それに基づき、入試の選抜方法を改善する。</li> </ul>

**【評価指標⑤】 入学者選抜において、多面的・総合的に評価を行う組織（アドミッション・オフィス）の設置を検討する。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021 年度入試の実施からアドミッション・センター(仮称)が機能する体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年 4 月にアドミッション・センター(仮称)を新設するため、入試事務室とアドミッション・センター(仮称)の関係性、業務の分担等を決定する。</li> <li>・ アドミッション・センター(仮称)における教員と事務職員の協働方法を検討する。</li> </ul>

**【評価指標⑥】 併設校との連携を強化し併設校からの入学率の増加を目標にする。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度入学率は、共立女子高等学校 19%(61 人/322 人)、共立女子第二高等学校 47%(75 人/161 人)を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 併設校の中学入試の学校説明会において、保護者の認知度を上げる。</li> <li>・ 併設校の高校 3 年生対象の説明会で、他大学と比較した本学の優位性を説明し、入学率を高める意識付けをする。</li> </ul>

**【評価指標⑦】 共立女子大学大学院について、入学定員の確保を目標にする。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度入学者数 38 人を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料請求者にダイレクトメールを送付し、来校促進を図り、本学教員と接触することで受験促進を図る。</li> <li>・ 学内広報を強化する。</li> </ul>

## I-2. 教育の質

### 目標

カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学生の付加価値を最大化させる。

<p>主となる委員会・会議          全学教学改革推進委員会          ビジネス学部（仮称）設置準備委員会          共立女子大学・共立女子短期大学FD委員会</p>	<p>主となる事務局          教務課、図書課、総合企画室</p>
---	---

## 2019年度 事業計画

### (1) 【教育組織】

【評価指標①】 2020年4月にビジネス学部（仮称）を新設する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度8月にビジネス学部（仮称）の設置認可を確実に受ける。</li> <li>ビジネス学部（仮称）の開設準備を適切に行い、2020年4月1日の開設を迎える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置認可申請書類および寄附行為変更認可申請書類を慰労なく文部科学省へ提出する。</li> <li>設置認可申請に関する教員審査および実地検査の結果に適切に対応する。</li> <li>施設・設備・図書について、設置計画や予算に基づき、準備を進める。</li> <li>オープンキャンパスを含む認知広報、認可後の学生募集広報、入学試験を確実に実施し、適切な体制で開設準備を進める。</li> <li>開設後の学部運営に向けた体制の整備を進める。</li> </ul>

### (2) 【教育内容】

【評価指標①】 既設学部・科の教育課程の変更を行い、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、体系的・構造的な教育課程を編成する。合わせて、学修成果の検証サイクルを確立する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい成績評価基準をもとに、カリキュラム改正の方向性を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価基準をもとにしたカリキュラムチェックを行う。</li> <li>それによって明確化した課題に対する改善方を検討する。</li> <li>2021年度以降、必要に応じてカリキュラム改正を検討する。</li> </ul>

【評価指標②】 グローバル社会で必要となる英語によるコミュニケーション能力を高めるために、体系的・構造的な教育課程を編成する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>本学学生としての最低限の英語コミュニケーション能力の到達度を設定する。その到達度達成を目標に、正課外も含め、具体的な方策を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度については、外部試験を参考とした到達目標の検討を行う。</li> <li>外部委託の推進を図るとともに、正課・正課外でどのような取組が必要なのかを検討する。</li> </ul>

【評価指標③】 教育課程の変更にあわせ、2020年度までに文芸学部のコースの見直しを行う。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度からの科目名も含めた新カリキュラムを決定する。（2019年6月目途）</li> <li>新カリキュラムの下、学修成果の実質化をめざす。授業設計について検討する。特に、現行よりも多くのアクティブ・ラーニングの導入をめざす。</li> <li>新カリキュラムをもとにした学生募集活動を行なう。受験生にその魅力の訴求をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムの科目概要、シラバスの作成を行う。</li> <li>アクティブ・ラーニングの取り入れ方について具体的な検討を行う。</li> <li>ルーブリックの導入等、教育成果の可視化、実質化について具体的な検討を行う。</li> <li>新旧カリキュラム同時進行に伴う、学生への配慮を検討する。</li> <li>オフィシャルガイド等の広報媒体をもとに、オープンキャンパスや進学相談会等にて、新カリキュラムの魅力を受験生に伝える。</li> </ul>

**【評価指標④】教育課程の変更にあわせ、国際学部のコースの適切性、GSE プログラムの点検・評価を行い、充実方策を実施する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の終わりまでに、参加者全員が、引用文献を正しく付けることを含めて、英語で卒業論文を書く基礎を固める。</li> <li>・GSE プログラム1期生の4年次生全員が、4年間の集大成としての英語による卒業研究を書き上げることができるように指導する。</li> <li>・学修支援体制の強化などを通じて、GSE プログラム参加学生の継続率の改善を図る。</li> <li>・学生アンケートによる満足度調査で70%以上の学生がおおむね満足または非常に満足と答える教育内容を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GSE 参加学生の英語運用能力の継続的な分析のため、TOEIC による成績分析を継続する。</li> <li>・TOEIC Writing 試験を取り入れる。</li> <li>・English-speaking TA プログラムの運用の継続と経験を蓄積する。</li> <li>・特別学修アドバイザーを試行する。</li> <li>・入学前学修の強化、夏季休暇中のエンパワーメントプログラム（留学生 TA を囲んだ英語での啓発セミナー）の始動、学年別始業時ガイダンス、TOEIC オンライン学修コースなどを継続する。</li> </ul>

**【評価指標⑤】看護学部について、2019年度に保健師養成課程を導入する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部 DP に基づく保健師養成の達成に向けて、1年次の保健師課程カリキュラムを運営する。</li> <li>・保健師教育機関のネットワークに加盟し、保健師養成に関する最新の情報収集と実習実施等への基盤体制を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師課程のカリキュラムを適用し、質の高い授業を展開する。</li> <li>・2019年度入学の学生並びに保護者に対し、対象学生の選抜要領を周知する。</li> <li>・2019年度入学生に対して、オリエンテーションや授業を通じて保健師課程履修への意欲を高める。</li> </ul>

**【評価指標⑥】学生の精神的自立・職業的自立・社会的自立の基盤となる能力を養成するために、2020年度に新しい教養教育の教育課程を編成する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい教養教育科目に変更したカリキュラムを記載した学則を文部科学省に届け出る。</li> <li>・新しい教養教育の運営方法について、確定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に確定した履修条件を基に、開講クラス数を確定し、担当教員を検討する。また、その際に、担当を業務委託の教員にするかも併せて検討をする。</li> <li>・アクティブ・ラーニングの支援体制について、「全学教育推進センター（仮称）」にて検討を進める。</li> </ul>

**【評価指標⑦】教育課程の変更にあたり、授業科目の精選・科目選択の幅の見直しを行う。既設学部・科の専門科目のコマ数を2017年度比で300コマ削減する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二期中期計画期間内に300コマ削減するため、2020年度の削減数を達成する。目標削減コマ数は、82.9コマである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・300コマ減のコマ数で、現学部・科の授業を展開するために、2019年度も計画的に見直しを進める。</li> </ul>

**【評価指標⑧】KWU ビジョンの達成を目指し、学外組織との連携による課題解決型アクティブ・ラーニング授業を全学生に提供する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学部・科の学生の履修を目指す。</li> <li>・授業担当教員以外の専任教員の授業見学をより促進させる。</li> <li>・授業への支援を行う部署の範囲を広げ、全学的な支援ができるよう体制を作っていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の声を活かし、授業運営を充実させる。</li> <li>・授業担当教員以外の専任教員の参加（授業参観、事前事後ミーティング等）を促す。</li> <li>・授業に必要な物品管理や授業支援ツール（Google ドライブや授業の撮影）の提供など、学習支援プロジェクトからの授業支援体制を強化する。</li> </ul>

(3) 【教育方法・学修成果】

【評価指標①】学生の卒業時の学修成果の質を保証するための仕組みを整備する。特に、学生ポートフォリオの導入と GPA の活用は必須の検討項目とする。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>学修技法の修得を支援する仕組みを整備する。</li> <li>授業設計の支援および効果的な教材の作成支援を充実する。</li> <li>ルーブリックの導入・活用による厳格な成績評価と、それに基づく GPA の活用による質を保証する。</li> <li>アクティブ・ラーニングを積極的に支援する仕組みを整備する。</li> <li>FD 活動の充実による、各種制度の検証と改善の実施、教育の PDCA サイクルを確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全学教育推進センター（仮称）」を稼働させる。</li> <li>「全学教育推進センター（仮称）」が中心となり、到達目標に掲げられた課題に関する施策を実践する。</li> <li>FD 活動の検証と制度の見直しについて、専門家の意見を取り入れる。</li> <li>次世代 kyonet の利用に関する推進活動を行う。</li> <li>担任（アカデミックアドバイザー）は、学生ポートフォリオや GPA 等を活用して担当学生への適切な学修指導を行い、学修成果の質の保証を図る。</li> </ul>

【評価指標②】学修成果の可視化や成績評価の標準化の観点から、専任教員の担当科目の 50% 以上においてルーブリックを導入することを目指す。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019 年度に導入する「成績評価の基準」と「科目概要・到達目標・単位修得目標」を踏まえて、導入後に点検・評価を行い、ルーブリックを作成する際の指針を策定する。</li> <li>ルーブリックが学修成果の可視化に有効なツールであることを学内に浸透させて 2020 年度以降に導入できる体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019 年度に稼働予定の「全学教育推進センター（仮称）」を中心に、左記の点検・検証やルーブリックに関する説明会や研修会を開催して、ルーブリックの必要性について情報共有できる場を設ける。</li> <li>教員用の「ルーブリック作成マニュアル」を作成する。</li> </ul>

【評価指標③】教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催等により、FD 活動の活性化を図る。また、全教員の FD 活動の参加を目指す。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>全専任教員が主体的に FD 活動に参加するようにする。</li> <li>「全学教育推進センター（仮称）」が機能し、教育活動の活性化が実現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業見学会への参加率をさらに上げるための方策とフィードバック方法を検討する。</li> <li>教員が参加しやすい研修会を企画・立案する。</li> <li>新任教員への FD 活動の充実を図る。</li> <li>FD 活動の検証と制度の見直しを行う。（GPA の活用、シラバスの充実、CAP 制等）</li> <li>FD 委員会の役割について検証する。</li> </ul>

### I-3. 学生生活

#### 目標

充実した学生生活を支援し、学生の資質・能力を向上させる。

主となる委員会・会議

全学学生委員会

共立女子大学・短期大学国際交流委員会

主となる事務局

学生課

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】** 学生が孤立して学生生活を送ることのないよう、コミュニティ形成に関わる支援を行い、自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる学生の割合を98%以上に向上させることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>1年修了時に自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる学生の割合を94%にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任（アカデミックアドバイザー）は、担当学生との面談等を通して適切なコミュニケーションを取り、相談しやすい環境を整える。</li> <li>図書館主催ランチセミナーに学生課企画を3回出す。</li> <li>kyonet機能（Q&amp;A）を使った「学生の声」の収集を開始する。</li> <li>従来実施していた学生生活実態調査を見直し、学生生活改善につなげる調査と実施計画を立案する。</li> </ul>

**【評価指標②】** 学生が学修に専念し、継続することができるよう、給付型奨学金の拡充を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>給付型奨学金に関する情報を収集し、どの様に給付型奨学金を拡充するか立案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポーターズ募金による給付型奨学金の案を作成し、規程化に向けて検討を進める。</li> </ul>

**【評価指標③】** 学生が心身の健康を維持し、学修を継続することができるよう、フィジカルヘルスおよびメンタルヘルスに関わる相談体制の充実を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報をつまえた上で、健康相談、面談を健全な学生生活につなげる。</li> <li>学生に向け、心身の健康のための情報を発信する。</li> <li>学生相談のための環境を整える。</li> <li>多様な学生に対する理解と支援の勉強会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任（アカデミックアドバイザー）は、担当学生との面談等を通して適切なコミュニケーションを取り、相談しやすい環境を整える。</li> <li>次世代kyonet上で、必要な情報を教職員で共有できる仕組みを確立する。</li> <li>学生向け健康セミナーを定期的に開催する。</li> <li>新体制での学生相談室運営を開始する。</li> <li>「教職員のための学生対応ハンドブック2019年度版」を発行する。</li> <li>コンサルテーションを通して教職員からの学生支援相談に対応する。</li> </ul>

**【評価指標④】** 健康な学生生活を送るために欠かせない食の提供を充実し、学生食堂・売店の満足度を80%以上に向上させることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業年次生アンケートにおける学生食堂・売店の満足度を78%にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他大学の学生食堂補助の状況を分析し、廉価で提供するための補助案を作成、提案する。</li> <li>朝食提供案を作成、食堂と相談し、実施する。</li> <li>学生の満足度、意見を調査し、学生参加型のメニュー、商品開発を進める。</li> </ul>



**【評価指標⑤】長期型・短期型、国内型・国外型を問わず、グローバル化に対応した教育（留学）プログラムの支援を充実し、参加者数を10%以上に増加させることを目指す。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期型・短期型、国内型・国外型を問わず、グローバル化に対応した教育（留学）プログラムの支援を充実し、文芸学部、国際学部参加者数を学生数の6%以上に増加させることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの活動の中で、今後、国際交流に関連する活動を実現していく検討をする。</li> </ul>

**【評価指標⑥】外国人留学生と日本人の在学生在が外国語で交流する機会の増加を図る。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生と本学学生が外国語で交流する機会の増加を図る。</li> <li>・学生自らが自立して外国人学生と交流し、進んでサポートができるようになることを目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム等の関係性を通じ今後国際交流に関連する活動を実現していく方向で検討する。</li> <li>・チューター数を15人にする。</li> </ul>

**【評価指標⑦】正課外教育の支援の充実により、多様な学びの機会を提供し、正課外教育に対する学生満足度を90%以上に向上させることを目指す。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業年次生アンケートにおける共立アカデミーの学生満足度を87%にする。</li> <li>・学生受講者数を延べ2,810人にする。</li> <li>・資格や検定の合格率を平均で76.5%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に引き続き、学生参加型、社会連携型の公開講座を企画、開催する。</li> <li>・新入生父母向け説明会を利用し、語学・資格系講座について説明する。</li> <li>・次世代kyonetを利用し、講座情報を発信する。</li> </ul>

**【評価指標⑧】学生が主体的な活動の中で能力を伸ばすことができるよう、正課外活動への支援を充実し、クラブ・サークル支援の満足度を80%以上に向上させることを目指す。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業年次生アンケートにおけるクラブ・サークル支援満足度を75%にする。</li> <li>・学内公認団体に所属している学生を全学生の30%にする。（2018年4月25.6%）</li> <li>・多様な正課外活動の機会を提供する。</li> <li>・共立オリンピック・パラリンピックボランティア育成プログラムのエントリー者を120人以上にする。</li> <li>・2018年度まで大短GPプログラムとして図書課で立案、実施したスタンドアッププロジェクトを引継ぎ、5件立案、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムにおける他大企画への参加者を増やし、また、共立女子大学・共立女子短期大学の企画に他大学生の参加を促す。</li> <li>・社会と連携したオリパラ関連イベントを共立講堂で開催する。</li> <li>・地域行事への参加とその活動を発信する。</li> <li>・東京都都市ボランティアの協定を結び、参加者増を図る。</li> <li>・図書課、サポーターからの報告・検証を踏まえ、スタンドアッププロジェクト案を決定し、6月にスタートする。</li> </ul>

## I-4. 学修支援・授業支援

### 目標

学修に専念できるよう、十分な学修支援を行うとともに、授業支援を適切に行い、教育効果を高める。

#### 主となる委員会・会議

全学教学改革推進委員会

共立女子大学・共立女子短期大学 FD 委員会

図書館運営委員会

#### 主となる事務局

図書課

## 2019年度 事業計画

**【評価指標①】 授業外での学修の必要性を高めることにより、卒業時における1日当たりの授業時間外の学修時間について、「2～3時間以上」を80%以上、「していない」を0%にすることを旨とする。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス作成を支援する体制を構築する。</li> <li>授業外の学修を支援する体制を構築する。</li> <li>LMSを利用して学修状況を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全学教育推進センター（仮称）」が中心となり、到達目標に掲げられた課題に関する施策を実践する。</li> <li>次世代 kyonet の利用に関する推進活動を行う。</li> </ul>

**【評価指標②】 アクティブ・ラーニングの普及を中心とした、教育効果を高める授業支援の在り方を検討し、適切な支援体制を整備する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>LMSの効果的な利用方法の研究を推進する。</li> <li>アクティブ・ラーニング型授業支援体制を構築する。</li> <li>教員ニーズを把握する体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「全学教育推進センター（仮称）」が中心となり、到達目標に掲げられた課題に関する施策を実践する。</li> <li>次世代 kyonet の利用に関する推進活動を行う。</li> </ul>

**【評価指標③】 授業外学修の支援を充実させ、学生が目指す学修成果を達成できるように支援する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学部について、1年生がタブレットを利活用できる環境を構築するとともに、授業資料を次世代 kyonet と連携して学修ツールとして活用できるようにする。</li> <li>ラーニング・コモンズの Shared iPad を4台の検証結果より、40台の貸出用 iPad の運用を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任（アカデミックアドバイザー）は、担当学生の授業時間外の学修指導を適切に行い、学修成果の質の保証を図る。</li> <li>看護学部について、1年次生のタブレット利活用について支援するとともに、タブレット端末利用支援、授業資料の電子化、授業成果物の電子化について支援する。</li> <li>ラーニング・コモンズで貸出している iPad の40台を更新し、利用法を確立する。</li> </ul>

**【評価指標④】 ラーニング・コモンズの利用者数を年間50,000人以上、利用満足度を90%以上、図書館利用サービス満足度を90%以上にすることを旨とする。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>ラーニング・コモンズの利用者数を年間60,000人以上、図書館利用サービス満足度88%以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館ガイダンスの依頼数の増加に対応するため、5階のメディアラボにガイダンスルームを設ける検討をする。</li> <li>「全学教育推進センター（仮称）」において、事前事後学修の実質化についてラーニング・コモンズの利用方法をチェックする。</li> <li>スマホアプリの新規導入数500件を目指し、図書館サービスの普及を目指す。</li> <li>図書館ガイダンスの利用状況を教員に広報し、年間ガイダンス件数35件以上を目指す。</li> <li>電子図書の利用率拡大を目指す。</li> <li>スマホアプリ「リブコモ！」の普及により、混雑状況やPC利用状況の可視化を目指す。</li> </ul>

## I-5. 就業力

### 目標

積極的にキャリア形成支援を行い、社会を生き抜く力を育む。

主となる委員会・会議 全学学生委員会	主となる事務局 就職進路課
-----------------------	------------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】在学生向け調査および卒業生調査を活用し、体系的なキャリア教育支援プログラムを実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子大学・共立女子短期大学のキャリア教育体系を、2020年からの新しい教養教育におけるキャリア教育を踏まえながら検討・作成する。</li> <li>キャリア教育体系に沿った、次年度の就職進路支援策を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育ポリシーを策定する。</li> <li>それぞれの学部・科の教員が担任として、またゼミの担当者として行っているキャリア支援をアンケート調査する。</li> <li>キャリア教育科目で身につく力、専門科目・全学共通教養教育科目で身につく力を科目毎に分かる仕組みを検討する。</li> <li>担任（アカデミックアドバイザー）、専任職員、キャリアカウンセラーが全員、キャリア教育体系を理解し、就職進路支援を行う。</li> </ul>

【評価指標②】学生アンケート項目における、就職・進路満足度について、95%以上の学生から満足を得ることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業年次生アンケートにおける、就職支援の満足度について、「あまり満足していない」を「まあ満足している」に3ポイント以上上げることを目指す。</li> <li>卒業年次生アンケートにおける、進路先の満足度について、「あまり満足していない」を「まあ満足している」に1ポイント以上上げることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談、各種ガイダンス・プログラム、情報提供について、満足していない理由の背景にある状況をアンケートの自由記述等から把握する。</li> <li>カウンセリングの予約待ちをなるべく少なくする方策を検討する。</li> <li>研修参加等で専任職員のスキルアップを図る。</li> <li>就職活動スケジュールに合わせ、最適な時期に効果的なガイダンスやプログラムの実施を企画する。満足度を検証する。</li> <li>タイムリーで価値ある情報提供を積極的に行う。</li> <li>低学年向けや内定後フォローの支援を継続的に進める。</li> </ul>

【評価指標③】都内女子大就職率 Top 5 入りすることを目標にする。（就職率＝就職者数÷（卒業者数－大学院進学者数）×100）

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率について92%以上（前年度90%）を目指す。</li> <li>就職率について都内女子大7位以内（前年度11位）を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任（アカデミックアドバイザー）をはじめ、教職員がそれぞれの立場から学生に接することにより、協働して学生を育て、早期から就業観、職業観を養うことや就職率の向上を目指す。</li> <li>就職支援として個別相談、各種ガイダンス・プログラム、情報提供を、学生の特性に応じて、実施する。</li> <li>キャリアカウンセラー・職員による相談対応において、多様な就業観、職業観の醸成に貢献する。</li> <li>早期から就業観、職業観を養う効果的なガイダンスやプログラムの実施を企画する。</li> <li>タイムリーで価値ある情報提供を積極的に行う。</li> <li>文芸学部の就職率を向上させるために、教職員の連携をさらに強めていく。</li> </ul>

**【評価指標④】** 学生アンケート項目における、就職に対する不安を 2017 年度調査より 5 ポイント以上減らすことを目指す。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に対する不安を 2018 年度調査より 1 ポイント以上減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職活動」を理解する機会として、個別相談、各種ガイダンス・プログラム、情報提供を、学生の特性に応じて実施する。</li> <li>・不安の解消を考慮したキャリアカウンセラー・職員による個別相談を設定する。</li> <li>・事案によっては、学生相談室や保健室と連携し対応する。</li> <li>・早期から「就職活動」を理解する機会となるようなガイダンスやプログラムの実施を企画する。</li> <li>・早期から就職情報に触れる機会を設ける。</li> <li>・就職活動をより理解してもらうため、全専任教員と助手に就職ガイドブックを配布する。</li> <li>・担任（アカデミックアドバイザー）、専任職員、キャリアカウンセラー等による個別面談等を通じて、学生の就職に対する不安を解消する。</li> </ul>

**【評価指標⑤】** 卒業時における社会人基礎力の自己評価で、全項目の平均を 3.30 以上にすることを目指す。

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係のスキルが身についたことを、90%以上の学生が卒業年次生アンケートで自己評価できるようになり、社会人基礎力の全項目の平均が 3.20 以上になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生全員、大学3年生全員を対象にアセスメントテスト、その解説会、関連講座を実施する。</li> <li>・次世代kyonetを活用し、自身の弱み、強みを自己理解し、改善・成長を目指す行動を考える機会とする。</li> </ul>

## I-6. 地域連携

### 目標

地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、知の成果を広く社会に還元し、教育的・学術的・文化的貢献を果たす。

{

 主となる委員会・会議  
 社会連携センター
 

 主となる事務局  
 教務課
 
}

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】** 本学の特徴や強みを踏まえた地域連携活動を推進するため、地域における本学の役割や地域連携の在り方を明確化する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度以降は、社会連携センターにおける検討結果を踏まえて、組織の在り方を定め、充実した活動を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度中に定める社会連携活動の枠組みに基づき、応募型の地域社会連携活動プロジェクトをスタートし、地域社会の具体的課題に貢献する。</li> <li>千代田学、東京都研究者事業提案制度など自治体応募型の申請に教員、職員が協働し、申請戦略の策定をすすめる。</li> <li>地域活動（千代田、福井など）を実践する。</li> <li>共立女子大学・共立女子短期大学における研究成果や人材等の知的資源を、自治体やその他団体に提供することで、地域社会に貢献するとともに、大学の使命の一つである「社会貢献」を果たすべく地域社会と密接に連携していく。</li> </ul>

**【評価指標②】** 地域における他大学、各自治体、地域経済界等で構成されるプラットフォームを形成し、教学改革を推進する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度以降、共立女子大学・共立女子短期大学のほか様々な特色を持つ地域の大学や自治体等で構成するプラットフォームの形成状況（地域連携の体制の整備・基本方針や中期計画の策定等）を踏まえつつ、具体的な活動をおこなっていく。</li> <li>上記を通じて、私立大学等改革総合支援事業タイプ5を取得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千代田区キャンパスコンソーシアムの5大学間において、単位互換、共同IR、共同研究等を推進していく。</li> <li>5大学その他、千代田区および千代田区商工業連合会も参加する千代田区キャンパスコンソ運営委員会において、引き続き各方面の連携強化を進めていく。</li> <li>共立女子大学・共立女子短期大学の地域連携事業計画と数値目標を達成し、タイプ5を取得するべく、学内外の活動を活性化させる。</li> </ul>

**【評価指標③】** 家政学部児童学科付設の「発達相談・支援センター」の活動を点検・評価し、地域と連携する全学的なセンターにするなど一層の充実を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度以降は、社会連携センターにおける検討結果を踏まえて、組織の在り方を定め、より充実した活動を展開する。本学における研究成果や人材等の知的資源を、自治体やその他団体に提供することで、地域社会に貢献するとともに、大学の使命の一つである「社会貢献」を果たすべく地域社会と密接に連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達相談・支援センターを全学的なセンター等として発展させるための体制を検討する。</li> <li>「はるにれ」への学生ボランティアの参加を促進する。</li> </ul>

**【評価指標④】** 在学生の修学や教職員の子育て支援をより一層サポートするため、共立女子学園内託児所の活動を点検・評価し今後の在り方を検討する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子学園内託児所が子育て支援を必要とする学生・教職員に対するセーフティネットの一つとして機能する。</li> <li>発達相談・支援センターの取り組みと連携し、地域の子育て支援の拠点として地域に開かれた託児所を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援が必要な学生・教職員に利用案内を周知するとともに、登録者の意見を把握するなど利用実績の点検を行い改善に向けた検討を行う。</li> <li>地域住民の子育て支援に貢献するため、千代田区と協議を進め、区の子育て支援活動に連動して必要なサービスを提供できる体制を検討する。</li> </ul>

## I-7. 教学マネジメント

### 目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行を行う。

主となる委員会・会議 全学教学改革推進委員会	主となる事務局 教務課、総合企画室
---------------------------	----------------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】** 学長を中心とした全学的な教学マネジメントを構築し、大学教育の改革サイクルを展開させる。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・全学的な教学マネジメントの実質化をめざす。	・内部質保証システムを確立する観点から、外部評価を導入し、外部評価を次の改善につなげられるようにする。

**【評価指標②】** 教育課程等の見直しに合わせて、専任教員と非常勤教員との連携や責任体制を明確化し、授業科目における専任教員の担当比率を高める。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・教育の質の教育内容評価指標7における見直しと連携して、カリキュラムを精選することで、専任教員の担当比率を高める。 ・専任教員と非常勤教員との連携や責任体制を明確化する。	・カリキュラムの改編時に、専任教員が責任もって授業を担当できる編成とする。 ・学部・科を越えて専任教員が担当するなどの検討をおこなう。 ・非常勤講師のみで担当する科目については、学部・学科の専任教員と非常勤講師とで情報共有の場を設けるなど、学部・学科の管理体制を明確化する。

**【評価指標③】** 共立女子大学・短期大学の教員枠数である「基本教員数」に基づき、学部・科の特性を踏まえ、教育研究能力の高い教員を採用する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・各学部・科の教員組織の編成方針を策定する。	・長期的な共立女子大学・共立女子短期大学の教育課程のあり方を検討し、その長期的視点に立った教員配置について検討を行う。 ・教育課程の再編内容、基本教員数の枠組みを踏まえ、当該学部・科の教育課程を実施するための適切な教員配置について検討を行う。

**【評価指標④】** 入口—中身—出口管理を一貫した流れとして、学生の成長に寄与できる、IRを実践する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・「ファクトブック」と「データで見る共立女子大学・短期大学」の発行を通じて、基礎的なデータをいつでも誰でも確認できる状態とし、各委員会や各部署でエビデンスベースの議論がしやすい環境を整える。 ・アセスメントポリシーに基づいた点検・評価を行うための情報提供を行うことで、学生の成長（学修成果）を基点とした改善を支援する。（内部質保証機能の強化）	・「ファクトブック」を最新版に更新して学内に共有する。また、学内にどのようなデータがあるのか、どのような現状になっているのかを周知するために、委員会のニーズや課題に即して「データで見る共立女子大学・共立女子短期大学」を継続的に発行する。 ・各種委員会、学部・学科、事務局と適切にコミュニケーションを取りつつ、必要な情報を適切なタイミングで提供する。またアセスメントポリシーに基づいた情報提供を適切に行う。

**【評価指標⑤】 学園の経営課題や共立女子大学・短期大学の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画に関するグットプラクティスを学内共有し、インナーコミュニケーションを充実させることで各活動のPDCAサイクルがより円滑に回ることを目指す。</li> <li>・KWU ビジョンや第二期中期計画が適切に進捗することを旨す。 (内部質保証機能の強化)</li> <li>・ビジョンの達成に向けた戦略的な企画立案、機動的な意思決定がエビデンスに基づいて実行されていることを旨す。</li> <li>・社会と積極的なコミュニケーションを取ることで信頼を得るための情報公開の在り方を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二期中期計画の進捗状況を共有し全学一致体制を構築することを旨した「Vision Letter」を定期的に発行する。</li> <li>・中期計画の進捗状況を「進捗管理シート」を活用して可視化し、「自己点検評価委員会」において自己点検評価を行い、各評価指標が適切に進行するように「主となる委員会」へフィードバックする。</li> <li>・BI ツールを導入して、有効に活用できるような体制を構築する。また、BI ツールを活用して、データ収集やクレンジングに係る時間を短縮し、可視化・分析を行う時間を増やすことで、より適切な情報提供が行えるようにする。</li> <li>・現在の情報公開の内容や方法を点検評価して、積極的な情報公開の在り方を検討する。</li> </ul>

## II. 共立女子中学高等学校

### II-1. 生徒確保

#### 目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者の質の向上と人数の増加を図る。

主となる委員会・会議 広報部 教務部 中高将来構想専門委員会	主となる事務局 中高事務室
---	------------------

### 2019年度 事業計画

#### 【評価指標①】 共立女子中学校について、入学定員を確保する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・1学年定員 320 人を確保する。	・2018 年度に実施した広報活動を検証し、より効果的な企画に取り組む。

#### 【評価指標②】 実受験者数で 1,000 人、受験者総数で 1,500 人以上を目標にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタラクティブ入試の浸透を図る。</li> <li>・合科型入試やインタラクティブ入試等 4 教科受験以外の入試形式に活路を見出すとともに、帰国生の入学後プログラムの充実によって帰国生の受験増加も図る。実受験者を 1,000 人に近づけ、実質倍率 2 倍以上を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語塾や英会話スクールに通う小学生とその保護者にインタラクティブ入試や帰国生入試をアピールするため、ダイレクトメールを出す。</li> <li>・インタラクティブ チャレンジおよび入試本番のインタラクティブトライアル実施に際し、ネイティブのファシリテーター役を適切に確保し、綿密な打ち合わせを行う。</li> <li>・公立中高一貫志願者への認知度向上を図る。</li> </ul>

#### 【評価指標③】 教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・「多様性」「リベラルアーツ」等、本校の教育理念への理解者をさらに増加する広報活動を通して、本校志望者を増やしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校風調査」を利用し、本校イメージをリサーチすることで、今後の広報活動戦略に活用する。</li> <li>・SNS 広告や検索型広告を活用する。</li> <li>・パンフレット、チラシ、ホームページなどに利用できる、小学生が好むデザインへのデジタル素材（生徒イメージ・施設など）を作成し、各所で活用する。</li> </ul>



## II-2. 教育の質

### 目標

共立女子中学高等学校独自の学習システムを充実させ、進学面を強化し、時代に即した生徒の学力向上を図る。

主となる委員会・会議 教務部 国際交流部 進路指導部 情報システム管理委員会	主となる事務局 中高事務局
--	------------------

## 2019年度 事業計画

### 【評価指標①】グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上や資格試験等への対応を進める。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学卒業までに全員英検準2級以上の取得を目指す。</li> <li>・ TEAP 等の外部検定試験のスコアアップを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランゲージスクエア専用のパソコンを設置する。</li> <li>・ 校内でオンライン英会話を実施できるようにカリキュラムを検討する。</li> <li>・ ネイティブ教員と生徒との言語活動を増やすために、ランゲージスクエアの企画をさらに増やし、放課後だけでなく昼休みに開室できる体制を摸索する。</li> <li>・ ネイティブ教員による TEAP 等の Speaking テスト対策講座を実施する。</li> </ul>

### 【評価指標②】グローバル人材育成の社会的要請や、海外研修希望生徒の増加傾向等を踏まえて、国際交流プログラムを充実させる。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語学修の意欲向上を目指す。</li> <li>・ ターム留学の研修校を複数化する。</li> <li>・ 交換留学の実現に向け、制度・体制の見直しをする。</li> <li>・ 国際交流プログラムをさらに充実させる。</li> <li>・ 2019年度中に1号館に国際交流部室を新設し、国際交流事業推進の拠点とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ターム留学の研修校を増やし、本校から派遣する生徒を増員する。</li> <li>・ セントマーガレットカレッジとの交換留学についても、実施可能にするための策を継続的に議論し、検討を進める。</li> <li>・ 留学斡旋機関と提携し、海外留学や研修のプログラムを紹介する機会をさらに増やす。</li> <li>・ 各国からの留学生の短期受け入れを行い、継続的にグローバル環境の充実を図りながら、生徒のグローバルマインドの育成を図っていく。</li> <li>・ グローバルアドバイザーとしてのチューターを継続・確保する。</li> </ul>

### 【評価指標③】新中学入試（帰国生入試における定員増、英語入試の開始、インタラクティブ入試の導入等）により、既に一定の英語力を有する入学者への英語力の向上策を検討し、確実に対応する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語運用スキルの高い生徒のモチベーションを維持・向上させ、成績上位層の増加をさらに目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018年度入学生の習熟度的要素を加味した英語の授業展開は、2019年度以降も継続的に実施する。</li> <li>・ 2020年問題を鑑み、高2の理系コースには必修科目として、また高3の国公立文系コースには選択科目として英会話の導入を図る。</li> <li>・ 中1英会話で展開されているクラス編成を年次進行で拡大していく（取り出し授業の拡大）。</li> </ul>

**【評価指標④】新学習指導要領を踏まえつつ、「4+2 システム」と「4つの力の育成プログラム」の点検・評価を行い、各教科指導の質を高める。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳」を含めて中学校学修指導要領の移行措置の実施状況を確認する。</li> <li>・高等学校新学習指導要領の周知を図る。</li> <li>・中学の「総合的な学修の時間」および高校の「総合的な探究の時間」の内容について見直しをする。</li> <li>・学校ルーブリックおよび教科ルーブリックを作成する。</li> <li>・学修の新たな評価方法について検討する。</li> <li>・各教科に対してシラバスの見直しを促すとともに、学校全体としての教育活動を見直していく。</li> <li>・日常の学びと実社会のつながりを意識させる活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や関係教科への聞き取りをして、必要に応じて指導・助言をする。</li> <li>・専任教員全員に高等学校新学習指導要領を配付するとともに、移行措置等についての情報提供をしていく。</li> <li>・学校ルーブリックの検討と並行して、6年間の探究活動の概要を作り、一部学年での2020年度からの実施に向けて準備をする。</li> <li>・各教科に教科ルーブリックの作成方法について助言し、初版の作成を後押しする。</li> <li>・定期試験の結果を重視する従来型評価方法とは違う評価方法について情報収集し、その共有化をする。</li> </ul>

**【評価指標⑤】思考力・判断力・表現力を高める時代に即した教育の展開として、主体的・対話的な深き学びを図り、その実施方法の研究を進める。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新中3生が、企業インターワークを経験する中で、日常の学修が社会とつながっていることを意識させる。</li> <li>・生徒の自主的で自由な活動の範囲を増やすとともに、責任と秩序の意識を育てていく。</li> <li>・アクティブ・ラーニングのために必要なファシリテーターとしてのスキルを教員が身に付け、それを伸ばす。</li> <li>・カリキュラムマネジメントの手法について、知識と経験を増やしていく。</li> <li>・研修に参加する教員の数を増やし、教員間での情報共有を活発にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業インターワークや公的機関の出張講義等を利用して、生徒に社会を意識させる。</li> <li>・学年行事や生徒会活動や学級活動などの場面を利用するなどして、学校活動の中で生徒に考えさせ、解決させる場面を意識的に多く作る。</li> <li>・Webで他校の授業研究を行える「Find!アクティブラーナー」サイトの利用を促すため、必視聴コンテンツを指定する等の活用ができる、学校法人向けサービスを導入する。</li> <li>・アクティブ・ラーニングやグループワークに活用しやすい、可動式の机・椅子が利用できる複数の教室を確保する。</li> <li>・カリキュラムマネジメントに関わる研修をはじめ、教育に資する講演・研修等への積極的参加を促す。</li> </ul>

**【評価指標⑥】ICT教育の充実策を検討し、実施する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中1・高1・高2にタブレット（iPad）を導入し、学校生活の様々な場面でICTの活用を図る。</li> <li>・全学年・全生徒にClassiを導入し、学校活動のさまざまな場での活用を図る。</li> <li>・教員がICTを活用した教材の作成や授業への工夫を十分にできるようにする。</li> <li>・Classiを活用した保護者への情報伝達体制を確立する。</li> <li>・ICT支援員を2名体制にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1台のタブレットを持つ学年（中1・高1・高2）では、学修活動や部活動での利用など、日常の学校生活の様々な場面でICT機器を利用させる。</li> <li>・高1・高2では、ポートフォリオの入力についてClassiを用いて日常的に行っていく。</li> <li>・教員に対する研修を充実させ、実践例などの情報共有の場を設けることで教員のスキルアップを図り、授業等でタブレットをより効果的に活用できるようにする。教員研修は2カ月に1回程度開催する予定である。</li> <li>・Classiを活用して保護者への連絡を密に行い、学校活動への理解を深めるように努める。</li> </ul>

## Ⅱ－３．教育力

### 目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議 教務部 進路指導部 生活指導部	主となる事務局 中高事務室
-------------------------------------	------------------

## 2019年度 事業計画

### 【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の相互評価システムの構築の検討方法の具体化を図る。</li> <li>・研修成果の共有化のシステムについてさらなる検討をする。</li> <li>・アクティブ・ラーニング等研究授業と成果との関連を分析する。</li> <li>・ペーパーレス化への要望もあり、紀要だけに限らない形で、成果の共有化の方策を検討する。</li> <li>・業務の見直しをしつつ、教員の充実した研修時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価システムの資料収集・研究担当を明確化する。</li> <li>・紀要等での報告の充実、研修成果の共有化を一層進める。</li> <li>・図書室等アクティブ・ラーニング実施の環境整備とともに成果の基礎データを収集する。</li> <li>・授業参観アンケートの有効な分析手法と、その結果からのPDCAサイクルの構築を模索する。</li> <li>・業務の見直しをしつつ、教員の充実した研修時間を確保する。業務ごとの労働時間のデータを経年で調査し、業務の優先順位を明確化してゆく。</li> </ul>

### 【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にする。</li> <li>・教員の授業優先・生徒優先の職務意識を高め、そうしたことが可能な労働環境を確保する。</li> <li>・教材や資料のペーパーレス化を進めて効率化を図り、教材の見直しも行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材（Classi・スタディサプリ・駿台サテネット21）を有効利用し、生徒に自ら学ぶ習慣をつけさせる。特にボリュームゾーンである中位層のボトムアップを目指す。</li> <li>・成績管理ツール（進研デジタルサービス・FINESYSTEM）を活用して生徒の学修状況を把握し、効果的な指導を行えるようにする。</li> <li>・中1・高1・高2へのタブレット導入を機に教材や資料のペーパーレス化を進め、授業や作業の効率化だけでなく、生徒の理解が深まるように教材の見直しも検討する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学修」の意味と、「自ら学ぶ」主体的な学修者を育成するという目標を、教職員・生徒・保護者で共有化し、その育成課程や方法を検討する。</li> <li>・保護者の学校活動への十分な理解と、共に生徒を育ててゆくという協力体制の構築を進めていく。</li> <li>・どのような指導を学校が行っているかを、保護者にとって可視化できる状況を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサプリ等を活用しつつ、学力・進路向上の具体的方策を探る。</li> <li>・受験生を持つ親のあり方等に関する講演会実施の可能性を模索する。</li> <li>・卒業生チューターの拡充と、より効果的な活動内容を模索する。</li> <li>・「自習サポートセンター」「Classi」「スタディサプリ」などの具体的効果の可視化を模索する。</li> </ul>

**【評価指標④】** 学校評価に関わる生徒アンケートに、「学校生活を通して、校訓である誠実・勤勉・友愛を意識し、行動ができるようになった」の設問を新たに設け、「おおむねあてはまる」以上を80%以上にすることを旨とする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情操教育の柱の一つとして、校訓である「誠実・勤勉・友愛」や本校が大切にしている「4つの力」を、日常的に生徒が意識できるようにする。</li> <li>・生徒自身の自己評価の中で、「4つの力」がより意識化され、その到達度を認識し、さらにそれを言語化できる手がかりを持たせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信などを使って、日常活動での「4つの力」の育成について、教職員、生徒、保護者の理解を深める。</li> <li>・総合的な学修の時間（探究の時間）や道徳の見直しに合わせて発足させた研究会で、より具体的な内容の検討を進める。</li> <li>・各能力の達成度を測定する指標として、ルーブリックの研究・作成を進め、「4つの力の育成プログラム」の点検、更なる充実を図る。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅱ-4. 進路

#### 目標

大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議 進路指導部 教務部	主となる事務局 中高事務室
----------------------------	------------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】 国公立大学への現役進学率を毎年10%以上（東京大学3名以上）にすることを目標にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学率を10%に近づける。</li> <li>受験に対応したコースごとのカリキュラムの見直しを行い、数学Bまで履修する生徒数を増やす。</li> <li>通期で国公立大学の受験を意識した講座の設置についても検討する。</li> <li>夏季講座や冬季講習の充実を図るとともに、通期で国公立大学の受験を意識した講座を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学受験対応のコースやカリキュラムの見直しを図る。</li> <li>私大定員厳格化の中にあっても、国公立文系コースの生徒は減少傾向にあるため、より積極的な啓蒙活動を進めていく。</li> <li>現在5日間で行っている前・後期の夏季講座の内容充実を図るとともに、3日を単位とした講座を2連続させることで、事実上6日間の開講も可能となるよう、講座開設方法について検討を進める。</li> </ul>

【評価指標②】 難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を毎年30%以上に、またGMARCH以上の大学への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>早急のできる教育環境を整備し、教育サービスの充実を図るとともに、生徒一人ひとりが自らの目標を達成するために必要な学力・人間力の向上を図る指導を強化する。</li> <li>下校時間後に活用できる本格的な自習室を稼働させ、さらにスクールTOMAS派遣のチューターに質問できる場所や体制の整備を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イングリッシュサブリの導入を検討する。</li> <li>各学年の必要性に応じて、TEAP対策講座、駿台サテネット21、スタディサブリの継続実施を図る。</li> <li>自習室および質問対応室の整備とその効果的な運用を、スクールTOMASと提携して図っていく。またタブレットを生徒が所持・使用中で、自習室における無線LANの整備を図る。</li> <li>卒業生のチューター10人体制は継続し、可能ならば12人体制が採れるようにする。</li> </ul>

【評価指標③】 共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子大学・短期大学の情報をいつでも分かりやすく生徒へ伝えられる環境整備を図る。</li> <li>現在実施している高2生対象の説明会に加え、中学3年生対象の共立女子大・短大の魅力を伝える機会の設置を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導室において、共立女子大学・短期大学の情報を得られるスペースを用意し、常に新しい情報をいつでも閲覧できる環境を整える。</li> <li>進路指導部より、共立女子大学・短期大学の情報について、進路通信等を用いて生徒や保護者へ情報発信する。</li> <li>進路説明会等の機会を活用し、中学段階からの共立女子大学・短期大学に関する一層の情報提供を進める。</li> <li>共立女子大学・短期大学との連携をさらに深め、大学の公開授業参加等を通じて大学の情報を肌で感じ取れる機会の提供を模索する。</li> </ul>

**【評価指標④】 2021 年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入試制度に関する情報をさらに収集し、随時生徒および保護者に提供する。</li> <li>・新入試制度対策の十分な環境を整える。</li> <li>・各教科で連携して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</li> <li>・特に英語の4技能に関しては、受験に対応できるレベルまでの底上げを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高2～高3のライティング添削指導を拡充する。</li> <li>・中2における英会話の本格的取り出し授業を実施する。</li> <li>・中学所属のネイティブ常勤教員の採用を図る。</li> <li>・基礎学力を定着させ、思考力・判断力・表現力の育成を図るための取り組みを一層充実させる。</li> <li>・教科間の連携を密にして、各教科で学んだことが有機的につながるような工夫をする。</li> </ul>

**【評価指標⑤】 学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で90%以上にすることを目指す。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・進路指導体制が整っている」の設問において、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で90%に近づける。</li> <li>・進路指導室の生徒用パソコンを6台(4台増設)確保し、加えて教員用パソコンをスペックの高いものに入れ替え、業務の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部のサポート要員(チューター、事務員あるいは助手の応援等)を確保すること等で、生徒へのサービスの向上を図る。</li> <li>・デジタル教材等の使用が可能となる環境をできる限り整える。</li> <li>・チューターの数を10人体制から12人体制に拡充する。</li> <li>・進路指導室の教員用パソコン5台は動作が遅く、業務に支障をきたしており、新規の機種への変更で業務を効率化させる。</li> </ul>

**【評価指標⑥】 学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で85%以上にすることを目指す。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・進路指導体制が整っている」の設問において、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で85%に近づける。</li> <li>・中学生やその保護者に対しても進路指導とその情報提供を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学段階での保護者への進路説明会を充実させる。</li> <li>・具体的な進路指導方法や情報提供について、教育用グループウェアClassiを利用して、保護者の理解を促すとともに協力を仰ぐ。</li> <li>・進路指導部からの通信もできる限り発行し、また授業参観日には積極的に進路指導室を見学してもらう。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### II-5. 管理運営

#### 目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 中高事務室
-----------------------------------	------------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】** 学園の経営課題や共立女子中学高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>学費を踏まえた教育環境の整備や拡充、教育環境の充実を、保護者や生徒が実感できるようにする。</li> <li>魅力ある学校作りのため、教育改革、大学入試改革、高大接続改革、進路指導、国際交流、ICT教育の推進等、中高の課題を教職員が共有し、法人の経営課題ともバランスを取りながら、より効果的な教育の内容と体制を創成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修の機会拡充や英会話の取出し授業の拡大を推進し、さらに専属のネイティブ教員を増員する中で、グローバル人材の育成を一層図っていく。</li> <li>ICTについては、中1・高1・高2の全生徒にはタブレットを購入してもらい、その活用を図る。高1・高2では、授業のみならずClassiを用いたポートフォリオの作成等でも活用する体制を確立する。</li> <li>HotConPassの保護者専用サイトである「欠席・遅刻・早退申請」を導入・活用することで、事務室での電話による連絡・確認方法の改善を図る。</li> <li>2019年度中には1号館に国際交流部室を新設し、什器（パソコンを含む）や資料を整え、グローバル情報発信の拠点とする。また、一部施設の配置変更や新設を行い、機能的で充実した環境の整備を進める。</li> </ul>

**【評価指標②】** 併設校間の教員の人事交流を活発にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>長期的展望に立った人事のあり方を検討する。</li> <li>必要に応じて、長期的な視野に立った人事交流を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>併設校における入学者確保の実情や教育内容等を踏まえつつ、国の設置基準等を参考にして、教職員組織の維持と活性化を図ることができる人事を検討する。</li> </ul>

### Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

#### 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

##### Ⅲ-1. 生徒確保

###### 目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 入試広報部 入試制度検討委員会 二中高将来構想委員会	主となる事務局 八王子事務室
--	-------------------

#### 2019年度 事業計画

##### 【評価指標①】 共立女子第二中学校高等学校について、入学者数の増加に努める。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子第二中学校では、70人を目標とする。</li> <li>共立女子第二高等学校では、高校からの入学者について135人（推薦100人・一般35人）を目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競合校分析から本校の強み・弱み・機会・脅威を客観的に把握した上で、入学者数増加に努める。</li> <li>中学受験においては、2018年度の歩留まり43%に対し、50%を目標に校長や在校生保護者との個別相談の機会を増やす。</li> <li>高校受験においては、併設大学への優遇進学制度を前面に出し、本校第1志望の受験生を増やすとともに、一般入試での2018年度の歩留まり30%に対し、35%を目標とする。</li> <li>これまでの給付制奨学金対象生徒の入学後の成績状況、進学実績等のデータを踏まえつつ、入学効果が期待され、かつ公立校との競合に対応し得る内申基準を設定する。</li> </ul>

##### 【評価指標②】 共立女子第二中学校については、実受験者数200人、受験者総数で400人以上を目標とする。共立女子第二高等学校については、実受験者数350人、受験者総数で380人以上を目標にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子第二中学校では、受験者総数390人を目標とする。</li> <li>共立女子第二高等学校では、高校からの受験者について、220人を目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学受験指導における塾の効果を重視し、塾訪問（中高受験合わせて約200カ所）を継続し、連携を強化する。</li> <li>高校受験においては中学校訪問（多摩地区を中心に約250校）を継続し、連携を強化する</li> <li>説明会での在校生・保護者による校内案内・学校紹介は10回実施しているが、今後はその機会をさらに増やす。</li> </ul>

##### 【評価指標③】 定員に満たない年次は、海外からの帰国子女を含め、積極的に転編入を受け入れる。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>海外からの帰国子女を含めて、転編入の生徒について、学期末毎に受け入れることを目標にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度は、海外からの帰国子女を含めて、転編入の生徒は1名であったが、2019年度はより多くの生徒を受け入れるため、情報収集を積極的に行い、実施可能なことを把握する。</li> <li>ホームページ等を活用して、転編入試験について発信する。</li> </ul>

##### 【評価指標④】 スポーツ・芸術活動等に優れている、また卒業生子女であることに配慮した入試制度を積極的に活用する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・芸術活動等に優れている、また卒業生子女で入学する生徒について、10名受け入れることを目標にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、ゴルフ部等、指導を強化するクラブにおいて、全国レベルの選手の獲得をめざす。</li> <li>同窓会と連携し、同窓会会報、同窓会総会、文化祭における卒業生企画等を通して、卒業生子女に対する優遇制度の認知度を向上させる。</li> </ul>



**【評価指標⑤】 教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>「英語教育」「国際教育」等、本校の教育理念をより多くの機会に発信し、本校志望者を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受験生およびその保護者に本校に直接来校していただけるよう、オープンキャンパスや部活体験、塾のバスツアー等の企画を実践する。</li> <li>「安心の進学システム」「高大連携」等、大学併設校としてのメリットを前面に打ち出す内容の広報活動を展開する。</li> <li>これまでのデータをもとに、受験者数の多いエリアや塾・学校等に重点を置いた広報活動を展開する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅲ－２．教育の質

#### 目標

新学習指導要領・高大接続改革等、新たな教育体制に対応し得る教育課程やシラバスの充実、国際化の進展を図り、生徒の学力および21世紀に求められる力（思考力・実践力）の向上に努める。

主となる委員会・会議 英語科 二中高国際交流委員会 教務部 進路指導部	主となる事務局 八王子事務室
---	-------------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】** グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は極めて重要であることから、英語教育改革を実行する。具体的には、徹底した英語教育を展開するシラバスに抜本的に変更する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学オリジナルの英語教育グランドデザインの完成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育グランドデザインの基盤を構築するため、外部有識者（アドバイザー）の協力の下、校内研修を継続する。</li> <li>・「レイヤードメソッド」の活動の一環としての全員参加型プログラム（MLS ドラマメソッド）を実施する。</li> <li>・ニュージーランドでの中期（ターム）留学を推進し、人数枠を2018年度の2倍の10名に広げる。</li> <li>・1号館地下の「Global Language Square」の活用を促す。</li> <li>・国際理解・英語強化を目的とした新コース（クラス）の導入（2021年度目標）に向けた準備をする。</li> <li>・教員の技量向上のため、外部の研修会にも積極的に参加し、ここで得たスキルを教科内で共有する。</li> </ul>

**【評価指標②】** 全生徒の英語力を確実に飛躍させるため、4技能統合型の英語授業を展開し、実用英語技能検定（英検）における数値目標（下記）を達成することを目指す。

中学APクラス…卒業までに全員準2級以上取得

中学Sクラス…卒業までに全員3級以上取得

高校特別進学コース…卒業までに全員2級以上取得

高校総合進学コース…卒業までに全員が準2級以上を、うち25%が2級以上取得

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学APクラスは中学卒業までに全員準2級以上を取得する。</li> <li>・中学Sクラスは中学卒業までに全員3級以上を取得する。</li> <li>・高校特別進学コースは卒業までに全員2級以上を取得する。</li> <li>・高校総合進学コースは高校卒業までに全員準2級以上を、内25%が2級以上を取得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習を利用しての毎日音読タイム等の教科書反復活動について、2018年度は中学3年を対象に実施しているが、2019年度からは中学全学年で実施する。</li> <li>・長期休暇中の英検対策ゼミについて、各級別ゼミを実施し、学年を問わず受講可とする等、充実させていく。</li> </ul>

**【評価指標③】** 新学習指導要領を踏まえた「針路プログラム」の点検・評価を実施し、より一層充実させることで、各学年の外部模試における数値目標（進研模試判定でB1以上、学年の30%）を達成することを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を踏まえて点検した「針路プログラム」を各学年と共有し、外部模試における数値目標（進研模試判定B1以上、学年の30%）を達成することを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試結果の検討とともに、思考力・判断力・表現力を育成するための授業研究をすすめていく。</li> <li>・競合校の分析を行い、成功事例を本校に合う方法で実施するための研究をする。</li> <li>・学力の底上げのために、スタディサブリの導入を検討する。また、サテライト授業の導入や土曜講座の拡大などを検討する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅲ－３．教育力

#### 目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議 情報システム委員会 二中高将来構想委員会	主となる事務局 八王子事務室
---------------------------------------	-------------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の公開授業を利用した教員の相互授業見学等による評価システムの構築を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内グループウェアを利用した研修成果の共有化のシステムを構築する。</li> <li>授業公開を年2回実施（6月・11月）し、教科会で相互評価し授業スキルの向上に努める。</li> <li>非常勤講師を含めた拡大職員会議を年2回実施（4月・8月）し、研修参加をシステム化する。</li> <li>教員の充実した研修時間を確保するとともに、外部研修への参加を促す。</li> </ul>

【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度は90%（2017年度80%、2018年度は3月に集計）にするために、日常のきめ細かい学習指導の実践とともに、家庭学習時間の定着、高い進路目的意識の維持を促し、生徒が自発的に学習に向かう姿勢を強化する。</li> <li>放課後も校内で学習が可能な場として、1号館地下に全学年が使用できる自習室を増設する。</li> <li>学年別に模試データを比較することにより課題を把握し、改善策を実施する。</li> <li>他校のICT教育の研究と調査、設備の検討をしつつ、導入を進める。</li> </ul>

【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度は90%（2017年度87%、2018年度は3月に集計）にするために、日常のきめ細かい学習指導の実践とともに、家庭学習時間の定着、高い進路目的意識の維持を促し、生徒が自発的に学習に向かう姿勢を強化する。</li> <li>学年別に模試データを比較することにより課題を把握し、改善策を実施する。</li> <li>保護者会・保護者面談等を通じて、課題を把握し、改善策を実施する。</li> </ul>

【評価指標④】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を92%以上にすることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度は92%（2017年度91%、2018年度は3月に集計）以上にするために、保護者会・保護者面談等を通じて、課題を把握し、改善策を実施する。</li> <li>学年通信、保護者会、進路通信等を利用して、保護者に教科教育の状況を適切に説明する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅲ－4. 進路

#### 目標

共立女子第二中学校高等学校独自の進路システム「針路プログラム」を充実させ、大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議 進路指導部 教務部	主となる事務局 八王子事務室
----------------------------	-------------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を30%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を30%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高3主任・特進クラス担任・進路指導部主任副主任からなる外部大学合格サポートチームを組み、模試結果の分析から受験校の決定まで様々な支援にあたる。</li> <li>・長期休暇中においては、生徒の学力に則したグレード別のゼミを実施する等、充実させていく。</li> <li>・4回（希望者には6回）の模試の自己分析をもとに、面談等を通じて改善点・伸長点を明らかにし、生徒を成長させていく。</li> <li>・外部講師特別ゼミを継続することで、受験対応力をさらに強化する。</li> <li>・下校時間を延長しての自習室利用（アフター6）を継続することで、学校に軸足を置いた受験勉強を促す。</li> </ul>

**【評価指標②】総合進学コースにおける共立女子大学・短期大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にすることを目標にする。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・総合進学コースにおける共立女子大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にすることを目標にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇中のゼミについて、生徒の学力に則したグレード別のゼミを実施する等、充実させていく。</li> <li>・4回（希望者には6回）の模試の自己分析をもとに、面談等を通じて改善点・伸長点を明らかにし、生徒の成長を支援する。</li> <li>・共立女子大学・短大個別相談会を実施する。</li> <li>・特に推薦・AO入試を志望する生徒には、小論文・面接指導、大学入学前教育を実施する。</li> </ul>

**【評価指標③】共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校2年次において、学部別説明会（講演会）を開催し、生徒及び保護者に魅力を伝える。</li> <li>・2018年度は、共立女子大学・短期大学のオープンキャンパスへの参加は99人であったが、2019年度は、100名以上となるように、促していく。</li> <li>・共立女子大学・短期大学での学びに円滑に移行できるよう、推薦で入学をする生徒を中心に、アドミッション・ポリシーを踏まえた事前学習を実施する等、高大連携を強化する。</li> </ul>

**【評価指標④】 2021 年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の針路プログラムを見直し、2020 年高大接続改革に効果的に対応できるよう改善する。</li> <li>・小論文模試を体系的に実施し、書く力、表現する力を養成する。</li> <li>・内外の研修・セミナーに積極的に参加し、最新の情報をいち早く把握するとともに、教員・生徒・保護者へ情報の提供・共有に努める。</li> <li>・学習の努力目標として各種検定（英語検定、漢字検定、数学検定、歴史検定等）の受験を勧め、基礎学力の定着を促す。</li> </ul>

**【評価指標⑤】 学校評価に関わる生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を 90%以上にするを目指す。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を 90%以上にすることを旨す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度は 90%（2017 年度 77%、2018 年度は 3 月に集計）にするため、学年集会における進路説明会・講演会を積極的に実施する。</li> <li>・面談等には、生徒の相談に丁寧に向き合いながら、進路状況冊子を活用し、卒業生の詳細な進路状況を伝える等、きめ細やかに指導する。</li> <li>・学年主任・担任・進路指導部主任副主任からなる大学合格サポートチームを組み、複数の目で個々の生徒の出願指導を行う。</li> </ul>

**【評価指標⑥】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を 90%以上にするを目指す。**

2019 年度 到達目標	2019 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を 90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度は 90%（2017 年度 87%、2018 年度は 3 月に集計）にするため、保護者会における進路説明会、保護者面談を通じて各学年に応じた最新の情報を的確に発信する。</li> <li>・進路状況冊子や進路通信を通じて、これまでの卒業生の進路データをより分かりやすく説明・提供する。</li> <li>・保護者からの要望などをできる限り取り入れ、よりの確な進路情報を提供する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅲ－５．管理運営

#### 目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 八王子事務局
-----------------------------------	-------------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】 学園の経営課題や共立女子第二中学校高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・校長のリーダーシップにより、共立女子第二中学校高等学校における諸課題を解決するため全教職員が一体となって取り組む。	・拡大職員会議（非常勤講師を含めた全体会）を年度の間（夏休みの最終日）にも組み込み、学習指導・生活指導等現状の問題点について情報を共有する。 ・中学各学年における学期ごとの学習状況を把握するため、教科担当者の連絡会議を開催し、よりきめ細かな指導が可能となるよう情報を共有する。

**【評価指標②】 入学者数に則したカリキュラム改革を実施し、人件費の抑制に努める。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・2018年より刷新した高校カリキュラムに基づき、人件費の抑制に努める。	・教育の質を保証しつつ、カリキュラムの合理化に努め、適切に人事計画を進めていく。

**【評価指標③】 併設校間の教員の人事交流を促進する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・2019年度の併設校間の教員人事交流計画を実行する。	・教員の人事交流を適切に行うための体制を整える。

## IV. 共立大日坂幼稚園

### 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

#### IV-1. 園児確保

##### 目標

教育課程・教育指導の改善充実、入園者選考方法の改善等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 入園者選考委員会	主となる事務局 —
------------------------	--------------

### 2019年度 事業計画

#### 【評価指標①】 共立大日坂幼稚園について、入学定員を確保する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>入園定員を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児募集のための効果的な広報（幼稚園案内パンフレット作成、ホームページをリニューアルし定期的にトピックス更新）を行う。</li> <li>地域の未就園児を取り込んだ活動（園庭開放を年12回、絵本の読み聞かせを年8回、体験入園2回）を実施する。</li> <li>卒園生やその保護者も取り込んだ募集活動（説明会や保育見学会）を5回実施する。</li> </ul>

#### 【評価指標②】 定員に満たない年次は、積極的に転編入を受け入れることを目標にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>園児数が定員に満たない年次は積極的に転編入を受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報をホームページで明らかにする他、文京区の園児募集状況（文京区私立幼稚園連合会のページ）を活用し、募集していることを明らかにしていく。</li> </ul>

#### 【評価指標③】 教育理念に共感する志願者を獲得するために効果的な広報計画を実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、案内パンフレットを用いた効果的な広報、特に春から夏にかけての広報を充実させる。</li> <li>未就園児用の活動の認知度を高め、志願者に結び付ける。</li> <li>ホームページのページビュー数、ページ別訪問数、平均ページ滞在時間を2018年度より増加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園案内パンフレットや広報紙で教育について掲載し効果的に広報する。</li> <li>ホームページのトピックスを年50回あげる。</li> <li>ホームページ閲覧数を元に検証を行い、リニューアルする。</li> <li>未就園児活動のチラシ配布等で情報発信する。</li> <li>地域の未就園児のための園庭開放や絵本の読み聞かせを通し園児の姿や活動について、園内ボードに掲出する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅳ-2. 教育の質

#### 目標

新幼稚園教育要領を踏まえ園児が生きていくための力を育む。

主となる委員会・会議 幼稚園教員会	主となる事務局 —
----------------------	--------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】新幼稚園教育要領を踏まえ、「遊び」を通しての指導や就学前教育を取り入れた教育を徹底する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育力を上げ、保護者からの支持を獲得する。</li> <li>・学校評価アンケートを実施し、「教育方針や目標がしっかりしている」については、「そう思う」以上を98%で維持し、「教育方針にそって保育実践がなされている」については、「そう思う」以上を90%以上で維持していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との懇談会を実施し教育について意見交換し、検証する。</li> <li>・カリキュラムに沿った日々の保育についての意見交換、日常的な保育内容研究を継続する。</li> <li>・保護者アンケートを実施し教育についての評価を検証する。</li> </ul>

【評価指標②】園児の活動・行事・生活それぞれについて幼稚園教育要領の中の「幼稚園教育の基本」が推進されているのかを検証する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価のアンケート、「教師は、遊びを大切にし、発展させ、豊かな学びを促している」について、「そう思う」以上を96%以上で維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に教員会を実施し、行事や活動について検証を重ねる。</li> <li>・各学年の保育参観を実施し、感想を集約する。</li> <li>・アンケートの検証結果をホームページ上で公表する。</li> </ul>

【評価指標③】教育活動との関係性を配慮しつつ、社会の動向、文京区の要請等を把握し、地域・社会との連携策を実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭開放、絵本の読み聞かせの内容充実を図り、各活動の参加者数を増加させ、定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文京区子育てフェスティバル」に参加し、共立大日坂幼稚園の教育について展示する。</li> <li>・園庭開放を年11回、絵本の読み聞かせを年6回実施し、内容について検証する。</li> <li>・夏休み中に園庭開放1回、教員による絵本の読み聞かせを2回ずつ実施し、内容についても検証する。</li> <li>・地域の文京福祉センター内子育て広場と活動予定を共有し情報提供する。</li> </ul>



## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### Ⅳ－3. 教育力

#### 目標

教育力を向上させて、園児一人ひとりの健やかな成長を促す。

主となる委員会・会議 園内研修検討委員会	主となる事務局 —
-------------------------	--------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】様々な領域を踏まえた計画的な園内研修システムや教員相互が評価し合う研究保育や学外での教員研修の充実を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"><li>・計画的に園内研修を実施する。</li><li>・共立女子大学家政学部児童学科と事例研究を実施し教員間の教育力を共有する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間テーマに沿った園内研修を年5回実施する。</li><li>・研究保育を年1回実施する。</li><li>・様々な分野の外部研修会に参加する。</li></ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### IV-4. 保護者との連携・協力

#### 目標

共立大日坂幼稚園で園児が心から安心して過ごすために、保護者と温かな関係を築き絆を深める。

主となる委員会・会議 幼稚園教員会	主となる事務局 —
----------------------	--------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】**保護者懇談会や保護者アンケートを実施し、改善点や検討課題を保護者会で共有することを通じて、保護者からの高い支持の獲得を目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の中で保護者アンケートの提出率を88%以上にする。</li> <li>園で行う教育全般について満足度調査を実施し、「おおむね満足している」以上を85%以上にすることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園長懇談会を年1回実施し、意見集約し改善点を検討する。</li> <li>各学年保護者会を実施し、意見集約し改善点を検討する。</li> <li>学校評価の中で保護者アンケートを実施し、保護者からの意見を集約し改善点を検討する。</li> <li>園で行う教育全般について満足度調査を実施する。</li> </ul>

**【評価指標②】**個人面談やグループ面談などの場を設け、子育て支援に努める。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関する情報を共有する。</li> <li>個人面談を実施し、各保護者の考え方を享受しながら子育て支援に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会を学年毎に年2回実施する。</li> <li>個人面談を年3回、新入園児については年4回実施する。</li> <li>個人的に面談の要望があれば、その都度受け入れ対応する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### IV-5. 管理運営

#### 目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営をおこなう。

主となる委員会・会議 中高・二中高・幼稚園将来構想専門委員会	主となる事務局 —
-----------------------------------	--------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】学園の経営課題や共立大日坂幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある幼稚園づくりに教職員一体となって取り組む。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
・全専任教員が情報共有できる環境を整える。	・各委員会に出席し課題を検討し、学園と連携しながら改善を図る。 ・必要があれば年1回～2回の意見交換会を実施する。 ・幼児教育無償化について公定価格が定まった後、幼稚園の保育料について検討していく。

## V. 共立女子学園

### 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

#### V-1. 財政

##### 目標

堅実な経営基盤を維持・向上させるために必要な財務戦略を立案・実行する。

主となる委員会・会議 財政運営会議	主となる事務局 財務課
----------------------	----------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】 マスタープラン達成に必要な資源を確保し、財政的な支援を行う。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターズ募金の個人からの寄付金額1,000万円を目標とする。</li> <li>・サポーターズ募金期間が、2020年8月までとなっているため、2019年度内に新たな募金事業を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付金における税制優遇措置として税額控除制度を導入する。</li> <li>・効果的な広告を迫及する。(刊行物、ホームページの更新)</li> <li>・使途を明確にした新たな募金事業を策定し、2020年から立ち上げる。手法の一つとして、クラウドファンディングの応用可能性を調査する。</li> </ul>

【評価指標②】 適切に収入を確保し、必要な支出について検証し、収支均衡を目指した予算を策定する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金、寄付金収入は2018年度実績以上を目指す。</li> <li>・収入規模に応じた適正な支出規模となる収支均衡予算を策定し、管理・遂行する。具体的には、事業活動収支における収支差額比率0%以上の予算を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス学部（仮称）を踏まえた収入予測を再試算し、財政年次計画を策定する。</li> <li>・情報機器を含む施設設備計画においては、2022年度までの資金計画を立案し、投入資金の平準化を行う。</li> <li>・人事評価制度・給与制度導入による人件費シミュレーションを行う。</li> <li>・上記を踏まえ、財務指標（経常収支差額比率）数値目標の見直しを行う。</li> </ul>

【評価指標③】 学園の永続維持を果たすために、基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算において、基本金組入前当年度収支差額を収入超過とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価指標②を確実に履行し、到達目標を達成する。</li> </ul>

【評価指標④】 共立女子第二中学校高等学校の財政状況を踏まえて、収支改善方策を検討する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の運営方針を共有し、共立女子第二中学校高等学校予算の縮減につとめ収支改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共立女子第二中学校高等学校の収支改善を実施するため、経費節減による支出のスリム化を行い、引き続き今後のあり方について学園としての方針検討を進める。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### V-2. 人事

#### 目標

学園の発展や中期計画の達成のため、教職員がやり甲斐を持ちながら能力を生かし活躍できる人事施策を推進する。

主となる委員会・会議  
学園将来基本構想委員会

主となる事務局  
人事課

### 2019年度 事業計画

#### 【評価指標①】教職員が意欲と能力を十分発揮できるよう、財政状況を踏まえた新しい人事・給与制度を導入する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局職員において人事評価制度を試行実施し、評価制度を確立する。</li> <li>2020年度の実施を目指して事務局職員の給与制度（昇給・昇任、基本給、手当、賞与等）の改善案を策定する。</li> <li>事務局の人事異動時期を変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価結果を任用や給与等の人事管理に活用する本格実施に向けて、制度の修正や評価者のスキル向上研修を実施し制度の共通理解を図る。</li> <li>人事制度検討委員会において、外部コンサルタントと連携して給与制度の見直しを検討する。</li> </ul>

#### 【評価指標②】多様な雇用・就労形態による人材活用、高い専門性を持つ専任職員の採用、働き方改革等、新たな職員の採用を含んだ職員採用計画を策定し、実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>新卒・既卒合わせて5名程度の採用を確保する。</li> <li>専門業務人材の採用方針及び嘱託職員採用や登用方針を定める。</li> <li>多様な働き方を支援するため、フレキシブル・ワークの導入を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降の退職者予定者や職員の年齢構成を踏まえて職員採用計画を策定する。</li> <li>採用予定人員を確実に確保するため、新卒採用活動内容の充実を図る。</li> <li>既卒求人は、求める業務や能力を明確にして採用活動を行う。</li> <li>専門業務人材及び嘱託職員の職務要件の整理や採用後の評価、専任職員への登用制度の導入などの検討を行う。</li> <li>フレキシブル・ワークの先進事例について調査を行う。</li> </ul>

#### 【評価指標③】資質向上と組織力強化のため、全専任教職員を対象としたFD・SD研修会等を実施し、全専任教職員の参加を目指す。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>全専任教職員を対象としたFD・SD研修会等を実施し、全専任教職員の参加を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修に関する規程に基づき職員研修を実施する。</li> <li>2020年度からの評価制度に連動した研修計画を策定する。</li> <li>自発的な能力開発を促進するため自学型研修を実施する。</li> <li>FD委員会との連携を図り、FD・SD研修を確実に実施する。</li> </ul>

#### 【評価指標④】事務局の業務を業務委託の活用も含めて見直し・整理し、事務局組織の最適化を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度に事務局再編を目指し再編案を決定する。</li> <li>全学教育推進センター（仮称）設置（1-4. 学修支援授業支援と連動）</li> <li>アドミッションオフィスの設置（1-1 学生確保に連動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年に検討した事務局再編案に基づいて人事制度検討委員会で検討する。</li> <li>事務局再編に合わせ業務の効率化を図るため、専任職員と非専任職員の業務役割の見直しや外部委託可能な業務の検討を行う</li> <li>全学教育推進センター（仮称）及びアドミッションオフィスを設置するため、関係部局と協議を行い、職務内容や人員配置について検討する。</li> </ul>

#### 【評価指標⑤】共立女子大学・短期大学の教育課程等を踏まえ、新しい基本教員数を定める。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな基本教員数を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部の教員組織の状況と財政状況を踏まえ、新たな基本教員数の検討を進める。</li> </ul>

**【評価指標⑥】 共立女子大学・短期大学の学部・科の特性や助手の業務実態を踏まえて、助手の適正人数を定める。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部別の助手枠を新たに検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助手業務のあり方および財政状況を踏まえ、各学部別に適正人数の検討を行う。</li> </ul>

**【評価指標⑦】 共立女子第二中学校高等学校の生徒数の減少を踏まえ、カリキュラム編成の見直しに則した教員数にし、共立女子中学高等学校との人事交流を促進する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムの年次進行に即して共立女子中学高等学校との人事交流を行い、教員数の適正化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子第二中学校高等学校の生徒数の動向及び退職者の状況を踏まえ、次年度の人事交流を検討する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### V-3. 施設設備

#### 目標

教育研究の維持向上と学生・生徒・園児の安全を確保するため、計画的に施設設備を整備し、環境整備を図る。

主となる委員会・会議 学園キャンパス整備検討委員会	主となる事務局 管財課、情報センター事務局
------------------------------	--------------------------

### 2019年度 事業計画

【評価指標①】神田一ツ橋キャンパスの施設設備について、長期的視点に立ったグランドデザインを策定する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンパスグランドデザインの原案を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「神田一ツ橋キャンパスグランドデザイン検討委員会」で原案をまとめるにあたり、専門業者に依頼をし、プランの検証および学内の意見の取り纏めを行う。</li> </ul>

【評価指標②】神田一ツ橋キャンパスの各号館について、中期的視点に立って毎年の設備更新計画（情報インフラ含む）を策定し、適切に実施する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報機器更新ガイドライン」を策定する。</li> <li>更新計画に基づき、ICT機器の更新、アクティブ・ラーニングに対応した机、椅子を更新する。</li> <li>ビジネス学部（仮称）開設に向け、研究室等の整備および4号館耐震補強工事を完了する。</li> <li>文芸学部の個人研究室化工事を完了する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の更新計画時における「情報機器更新ガイドライン（案）」を策定し情報センター運営委員会で検討を行う。</li> <li>老朽化したAV機器および机イス等の什器を順次更新する。</li> <li>ビジネス学部（仮称）設置に伴う4号館耐震補強工事等、各種工事を計画通りに進める。</li> </ul>

【評価指標③】八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、今後の施設設備利用計画を策定する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>八王子キャンパスにおけるコンピュータ教室（2教室）の管理運営方針を決定する。</li> <li>把握した活用状況に基づき教育活動および行事の優先順位で、施設の使用範囲をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>八王子キャンパスにおけるコンピュータ教室（2教室）の統一化の可能性について、情報センター運営委員会で検討を行う。</li> <li>2020年以降の施設の使用範囲について検討を行う。</li> </ul>

【評価指標④】八王子キャンパスの土地の売却処分を推進する。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きコンサルタント会社に自治体や仲介業者への対応等を委託し、売却を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用状況等を把握し、売却対象となる土地の洗い出しを行いその可否を検証する。</li> </ul>

【評価指標⑤】各研修センターについて、今後の利用計画を策定する。特に、軽井沢・河口湖の研修センターについては、利用実態を把握し利用率の向上を図る。

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢寮、河口湖寮の今後の在り方と赤字削減のための施策を策定する。</li> <li>杉並苑を解体し、その用地について教育目的での活用計画を策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢寮、河口湖寮の運用について、委託業者や学内利用者へのヒアリング等を行い赤字削減の施策を検討し、次年度からの実施に向け調整する。</li> <li>杉並苑を解体し、その用地について、教育目的での活用を検討する。</li> </ul>

## 中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

### V-4. 櫻友会・後援会・地域等との連携

#### 目標

櫻友会・後援会・地域等との連携を通じて、各設置校の発展に寄与し、活動を支援する。

主となる委員会・会議 —	主となる事務局 総務課
-----------------	----------------

### 2019年度 事業計画

**【評価指標①】 学園と櫻友会・後援会・地域等との連携方策の点検・評価を行い、組織・運営の充実を図る。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減を重視したアンケート方法を策定、実行する。</li> <li>・催事に卒業生の参加協力を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・櫻友会との事務連絡会を継続し、アンケートの収集と分析を相互に行う。</li> <li>・学内で保有する卒業生のアンケート情報の確認や利用を図る。</li> </ul>

**【評価指標②】 櫻友会との連携により卒業生ニーズを把握し、卒業生の満足度を高める施策を実施する。**

2019年度 到達目標	2019年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・櫻友会との務連絡会を継続し、コスト削減アンケート方法を策定、実行する。</li> <li>・卒業生から要望の学校施設利用（同窓会等）の実施システムを構築する。</li> <li>・ホームカミングデイは、過去2年間の開催内容を総合的に分析し、新しい開催方法を考え実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内関連部署と連携し学校施設の利用を調整する。</li> <li>・ホームカミングデイは、2019年度学年暦の検討と合わせて計画する。</li> </ul>



## 2. 2019 年度予算の概要

### (1) 2019 年度予算編成方針

本学園が、学園ビジョン、第二期中期計画を踏まえた諸活動を推進するとともに、強固な財政基盤を再構築していくため、2019 年度の予算編成は以下の基本方針に基づき策定する。

<基本方針>

- 当該年度の学園に帰属する収入規模（学生生徒等納付金、寄付金、補助金、資産運用収入他）に応じた適正な支出規模となる収支均衡予算を策定する。
- 全ての支出行為の合理性を検証し、支出を抜本的に見直し、経費節減を徹底する。
- 既存の制度（人件費・施設設備費等の固定費削減等）再構築を図る。
- 事業活動収支における経常収支の均衡予算（経常収支差額比率 0.0%以上）を目指す。

第二期中期計画の目標を達成するため、2022 年度までに事業活動収支の経常収支差額比率は 5%とすることを目指している。2019 年度はビジネス学部（仮称）設置構想中による施設設備等費用を見込みつつ、施設設備計画の見直しや経費の削減に努め、事業活動収支の経常収支差額において収支均衡（経常収支差額比率 0.0%以上）となる予算を編成した。

以上を踏まえた 2019 年度予算の概要は次のとおりである。

### (2) 資金収支予算（表 1）

【収入】学生生徒等納入金収入は、共立女子大学・共立女子短期大学の入学定員の管理により前年度予算額より約 9,000 万円減の約 83 億 6,600 万円を計上した。また、手数料収入は、入学検定料収入については近年の各設置校の志願者数増および設置構想中のビジネス学部（仮称）の検定料を含め前年度予算額より約 1,400 万円増の約 2 億 8,600 万円を計上した。補助金の収入のうち、経常費補助金については、各設置校の予測学生生徒数をもとに過年度の補助金実績額を踏まえ前年度予算額より約 3,400 万円減で計上している。それ以外の収入については、近年の実績額を見込み計上した。

その他、特定資産の取崩収入約 9 億 9,700 万円と前年度繰越支払資金約 31 億 5,900 万円を加え、収入の部合計を約 152 億 1,700 万円として計上した。

【支出】人件費支出は、前年度の退職者と今年度の採用予定者を加味して、前年度予算額より約 5 億 1,600 万円減の約 61 億 1,600 万円を計上した。それ以外の支出では、経常的な活動に関わる経費の他、中期計画予算、神田 4 号館のビジネス学部（仮称）設置構想に伴う工事・耐震補強工事、神田本館他各所の修繕および設備更新工事等の事業計画実施に伴い、教育研究経費支出は約 25 億 4,300 万円、管理経費支出は約 6 億 3,700 万円、施設関係支出は約 4 億 9,800 万円、設備関係支出は約 2 億 3,000 万円を見込んでいる。

その他、特定資産への繰入支出は 19 億円、翌年度繰越支払資金約 30 億 9,300 万円を計上した。

### (3) 事業活動収支予算(表 2)

事業活動収支については、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支差額は、約 4,500 万円の収入超過（経常収支差額比率 0.4%）となる見込みであり、本年度の予算編成の数値目標、経常収支差額比率 0.0%以上を達成する予算編成となった。その内訳としては、教育活動収支区分の教育活動収支差額は、前年度予算額より約 2 億 4,800 万円減と支出削減に努めたが 3,200 万円の支出超過となる見込みである。

教育活動外収支区分の教育活動外収支差額は、約 7,800 万円の収入超過を見込んでいる。また、特別収支区分の特別収支差額は、約 6,000 万円の支出超過となる見込みである。

以上の他予備費 1 億円を加え、基本金組入前当年度収支差額は約 1 億 1,400 万円の支出超過の見込みとなり、基本金組入額約 6 億 5,600 万円を第 1 号基本金に組み入れ、当年度収支差額は約 7 億 7,100 万円の支出超過となる見込みである。

### (4) 中期計画予算（表 3）

第二期中期計画に掲げられた重点施策（マスタープラン）達成のための実行計画（アクションプラン）は、所管する各部署、委員会では計画の適切性、予算および資源の合理性等を検討し、各個別計画予算として計上した。

表1. 資金収支予算総括表

収入の部 (単位：千円)

科目	2019年度	2018年度	増減
学生生徒等納付金収入	8,366,156	8,456,920	△ 90,763
手数料収入	286,568	271,862	14,706
寄付金収入	95,650	90,910	4,740
補助金収入	1,645,533	1,762,570	△ 117,036
資産売却収入	0	54,000	△ 54,000
付随事業・収益事業収入	22,760	22,310	450
受取利息・配当金収入	84,895	140,247	△ 55,352
雑収入	244,083	480,738	△ 236,655
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,385,760	1,303,920	81,840
その他の収入	1,457,106	1,512,476	△ 55,369
資金収入調整勘定	△ 1,530,196	△ 1,754,851	224,655
前年度繰越支払資金	3,159,670	3,809,942	△ 650,271
収入の部合計	15,217,986	16,151,042	△ 933,056

支出の部

科目	2019年度	2018年度	増減
人件費支出	6,116,187	6,632,308	△ 516,121
教育研究経費支出	2,543,661	2,487,787	55,875
管理経費支出	637,682	736,939	△ 99,257
借入金等利息支出	6,666	8,333	△ 1,667
借入金等返済支出	83,330	83,330	0
施設関係支出	498,500	243,000	255,500
設備関係支出	230,472	191,888	38,584
資産運用支出	1,900,000	2,500,000	△ 600,000
その他の支出	112,712	114,118	△ 1,406
〔予備費〕	100,000	100,000	0
資金支出調整勘定	△ 105,000	△ 106,330	1,330
翌年度繰越支払資金	3,093,776	3,159,670	△ 65,894
支出の部合計	15,217,986	16,151,042	△ 933,056

※2019年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表2. 事業活動収支予算総括表

(単位：千円)

		科目	2019年度	2018年度	増減
教育活動収支	取 入 の 活 動	学生生徒等納付金	8,366,156	8,456,920	△ 90,763
		手数料	286,568	271,862	14,706
		寄付金	95,650	90,910	4,740
		経常費等補助金	1,645,533	1,674,723	△ 29,189
		付随事業収入	22,760	22,310	450
		雑収入	244,083	480,738	△ 236,655
		教育活動収入計	10,660,751	10,997,462	△ 336,712
		科目	2019年度	2018年度	増減
	支 出 の 活 動	人件費	6,131,197	6,562,906	△ 431,709
		教育研究経費	3,895,711	3,950,287	△ 54,575
		管理経費	666,432	765,859	△ 99,427
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	10,693,340	11,279,051	△ 585,711
		教育活動収支差額	△ 32,590	△ 281,589	248,999
教育活動外収支	取 入 の 活 動	科目	2019年度	2018年度	増減
		受取利息・配当金	84,895	140,247	△ 55,352
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	84,895	140,247	△ 55,352
	支 出 の 活 動	科目	2019年度	2018年度	増減
		借入金等利息	6,666	8,333	△ 1,667
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	6,666	8,333	△ 1,667
	教育活動外収支差額	78,229	131,914	△ 53,685	
	経常収支差額	45,639	△ 149,675	195,314	
特別収支	取 入 の 活 動	科目	2019年度	2018年度	増減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	6,200	94,047	△ 87,847
		特別収入計	6,200	94,047	△ 87,847
	支 出 の 活 動	科目	2019年度	2018年度	増減
		資産処分差額	66,520	593,524	△ 527,004
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	66,520	593,524	△ 527,004
特別収支差額	△ 60,320	△ 499,477	439,157		
〔 予備費 〕		100,000	100,000	0	
基本金組入前当年度収支差額		△ 114,681	△ 749,152	634,470	
基本金組入額合計		△ 656,603	0	△ 656,603	
当年度収支差額		△ 771,284	△ 749,152	△ 22,133	
前年度繰越収支差額		△ 5,217,125	△ 4,766,781	△ 450,344	
基本金取崩額		0	298,808	△ 298,808	
翌年度繰越収支差額		△ 5,988,409	△ 5,217,125	△ 771,284	

(参考)

事業活動収入計	10,751,846	11,231,756	△ 479,911
事業活動支出計	10,866,527	11,980,908	△ 1,114,381

※2019年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表3. 中期計画予算

(単位：千円)

部門等	予算配分項目	事業内容	予算額
大学・短期大学	I-1. 学生確保	志願者数・受験者数増加へ向けたオープンキャンパスの充実	1,500
		志願者数・受験者数増加へ向けた広報活動の充実	23,100
	I-2. 教育の質	国際学部GSEプログラム充実のためのTOEIC Writing試験の導入	444
		国際学部GSEプログラム充実のためのTAの充実	336
		教養教育課程の課題解決型アクティブラーニング授業の充実	3,300
	I-3. 学生生活	多様な学生に対応した学生生活支援ハンドブックの作成	120
		オリンピック、パラリンピックに向けたボランティア育成プログラムの充実	400
		卒業生との連携の充実、ホームカミングデイの開催	700
	I-4. 学修支援・授業支援	学修支援・学生ポートフォリオシステムの導入	27,300
		教育推進組織の構築と運営サポートの充実	6,500
		ラーニングコモンズの活用促進	660
	I-5. 就業力	自己理解支援ツールによるキャリア支援の充実	9,101
	I-6. 地域連携	子育てひろばコーディネータの配置	720
I-7. 教学マネジメント	BIツール導入による教学マネジメントの充実	5,400	
中学高等学校	II-1. 生徒確保	中学インタラクティブ入試の充実	650
		志願者数・受験者数増加へ向けた広報活動の充実	736
	II-2. 教育の質	教育用グループウェアの充実	3,810
		企業インターンの充実	270
		授業研究のためのWebサービスの導入	76
		ランゲージスクエアの充実	250
		施設設備の整備、無線LANの構築	10,002
		ICT教育支援員の充実	15,552
		各教科指導力の向上、教員ループリック研修の実施	324
	II-4. 進路	進学実績向上への補習ツールの利用	1,998
進路指導充実に向けたチューターの増員		245	
進路指導室の生徒用PCの導入		1,200	
第二中学高等学校	III-2 教育の質	英語教育充実のためのMLSドラマメソッドの充実	600
		英語教育充実のための教員研修の実施	360
学園	V-1. 財政	募金活動の充実	1,020
	V-2. 人事	人事・給与制度の構築	10,600
		職員研修の充実	800
		採用関係の求人広告等の充実	600

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

128,673



女性の自立と自活  
共立女子学園



学校法人 **共立女子学園**  
KYORITSU WOMEN'S EDUCATIONAL INSTITUTION

〒101-8437  
東京都千代田区一ツ橋 2-2-1